



知っていて！緊急避妊ピル

性交から72時間以内に飲めば妊娠を高確率で防ぐ薬が「緊急避妊ピル」。国では今、医師の処方箋なしに薬局で購入できるよう検討しています。望まない妊娠を避けるため、緊急避妊ピルの動向は今後も要チェックです。

緊急避妊ピルとは？

避妊しなかった、避妊したものの適切でなかった、性被害を受けた、などの性交後に、緊急に避妊するための内服薬です。アフターピルとも呼ばれ、普段使用するピルとは成分の含有量が違います。多量の女性ホルモン剤を摂取することで、強制的に体を妊娠しない状態にします。

なぜ避妊できるの？

月経周期のどの時期に服用したかによって作用の仕方が異なります。排卵を抑制させる、子宮内膜を変化させて受精卵が着床しにくくする、などの作用があります。

ただし、受精卵が子宮内膜に着床してしまった（＝妊娠が成立した）後では効果がありません。中絶薬（大量出血などの危険があり日本で未認可）とは違います。

いつ服用すれば良い？

排卵が起きる前までに飲むことが肝心です。性交後72時間（3日）以内に服用しなければなりません。72時間を過ぎて、120時間以内なら効果があるピルを取り扱っている所もあるので、速やかに医師へ相談しましょう。

100%妊娠を防げる？

正しく使用した場合でも妊娠を阻止できない場合があります。排卵日付近は妊娠阻止率が下がります。性交後何時間で服用したかや、ピルの種類によっても妊娠阻止率が異なります。

- 24時間以内の服用で95%
- 25～48時間以内の服用で85%
- 49～72時間以内の服用で58%

妊娠阻止率：日本産科婦人科学会編
緊急避妊法の適正使用に関する指針
（平成28年度改訂版）から

どこで入手できる？

現時点では医師の処方箋が必要なため、産婦人科など医療機関を受診してください。保険適応外なので健康保険証は不要。未成年でも保護者の同意書は不要です。問診で最終月経日などを聞かれます。内診はありません。

費用は？

自由診療なので医療機関によって違います。税込みで1万2千円前後、ジェネリックで7千円前後のところが多いようです。平常時に落ち着いて比較検討しておくことをお勧めします。



ネットで安く入手できる？

SNSやフリマアプリなど、インターネットには偽薬や劣化品が出回っています。偽薬で妊娠したら？劣化品で健康被害が出たら？

中絶にはいくらかかる？

- 妊娠12週未満：日帰り手術で14万円前後。
- 妊娠12週以降～22週未満：入院し、薬で陣痛を起こして分娩する。週が進むほど高額になり35～45万円前後。
- 妊娠22週以降：いかなる理由があっても妊娠中絶は違法になり行えない。

オンライン診療も可能？

現時点では、性犯罪による対人恐怖がある場合、近くに受診可能な医療機関がない場合、に限って実施しています。さらに次のような条件があります。

- ①薬剤師の目の前で内服しなければならない
- ②内服3週間後に産婦人科医を受診しなければならない…服用後に出血があっても生理とは限らず、妊娠に伴う不正出血の場合があるため。妊娠に気付かない患者が危険な状態に陥ることを防ぐため。

土日祝日、夜間も処方してもらえる！？

厚生労働省のウェブサイト「緊急避妊にかかる対面診療が可能な産婦人科医療機関等の一覧」に、北海道の医療機関もたくさん掲載されています。診療の曜日や時間も載っています。なお、夜間救急外来の受診は避け、翌日の診療時間内に受診するよう求めている医療機関があることに留意してください。